

長野県革新懇ニュース

2024年3月号
発行日3月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 00510-3-15971

294

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 山本宗輔さんインタビュー
- 2面 1面続き、「近現代信州の歴史回廊」関秀雄さん
- 3面 核禁条約締結会議に参加して
本の紹介『モスクワ物語』、読者の声、漢字パズル
- 4面 雨よ降れ 会えなかった人 窪島誠一郎さん
写真で辿る信州と戦争 北原高子さん
映画評論『PERFECT DAYS』 内山到さん

長野県革新懇

検索



福島原発事故の教訓を 決して忘れてはならない

やまもと むねすけ
山本 宗輔さん

(フォトジャーナリスト)

風化しつつある 福島原発事故の教訓

Q 元日に能登半島地震が発生しましたが、東日本大震災との関わりでどのようにお考えですか？

東日本大震災からこの3月11日で14年目に入ります。「国難」と当時言われ、少なくとも2万2千人以上の方が亡くなられた文字通りの大震災です。しかし、復興と言える状況ではとてもないし、原発事故の終息の目処はまったく立っていません。それにもかかわらず、国難であることを忘れてしまったかのような雰囲気。福島原発の過酷な事故の教訓は一体どこにあったんだろうというのを思わざるを得ません。元日に能登半島で大震災が起こりました。あそこには北

現地取材で実感した 原発事故の怖さ

Q 3・11直後に福島を取材された動機と、その後の追跡取材についての思いをお聞かせください？

ちょうど3・11の1週間程前に、原発問題の映画を何本も作られている鎌仲ひとみ監督のトークイベントが都内であって、そこに行つて原発の問題を結構、新鮮に受け止めました。地震時には東京にいて、恐ろしいほどの揺れで、映像が流されたわけですが、当初は原発の事故に関するニュースはネット情報でもほとんどなかったです。これは怪しいなと思い、フリーランスの仲間6人で3月13日に双葉町の役場や双葉厚生病院へ行つたりしました。3人はそれぞれガイガーカウンタを持っていて、チェルノブイリや劣化ウラン弾の取材をしたり、1人はソ連の核実験場跡の取材などをしている、放射能汚染問題に精通していました。彼らの測定によって初めて、恐ろしい放射能が放出されていることがわかりました。平常時の2万倍という想像できない数値が出ていて、私も気分が悪くなるなどして、改めて原発事故の恐ろしさを知ったわけです。はじめは躊躇したのですが、結果としては、福島原発事故関連の取材を中心にやることになりました。

1953年長野県生まれ。フィリピンやビルマ(ミャンマー)の軍事政権下の少数民族 民主化闘争を取材。日本国内では「古い」と「戦争の記憶」のテーマで取材。3・11の翌日12日から福島に入り、13日には双葉町の放射能汚染の実情を現場から伝えた。その後も原発事故と大津波の被災地に通い続ける。主著:『戦後はまだ・・・刻まれた加害と被害の記憶』(平和協同ジャーナリスト基金賞奨励賞受賞)。『鎮魂と抗い3・11後の人びと』(ともに彩流社)ほか。

私は現地を取材しようと考え、1月9、10、11の3日間、福島に行つてきました。「来るな、来るな」という報道ばかりでしたが、救援物資を積んで軽トラで出かけました。とにかく福島まで何とか着いて、市役所に行つて救援物資を渡すところを覚えてもらつてそこで全部降りて、それから帰りに2日取材を兼ねて、撮影しながら戻ってきました。映像で皆さん見慣れているようにとんでもない被害でした。3月にはもう1回行く予定にしていますが、東日本大震災の教訓が生かされているかどうかの発言をちゃんとする以上は、現場を踏まえなくてはならないと考

えています。その後の1年半の取材を一気にまとめて、12年9月に『鎮魂と抗い 3・11後の人びと』



山本宗輔フォトポルターージュ
『鎮魂と抗いの12年』
わすか12年で、国難さえも風化している
「今は福島のこと、いつかはあなたの町のことに」
なぜ、私たちは変わらないのか
「また、事故がおきますよ。日本人の無関心気質が問題です」
事故後もずっと追い続けてきた、人々の生きる姿と言葉の記録
Yamamoto Munehiko Photoreportage
彩流社・2,420円、信毎の書評でも紹介された

風化させようとする 意図的な動き

Q 福島原発の事故処理の現状についてはどのようにお考えですか？

すでに「汚染水」の排出が強行されました。原発の廃炉工程でデブリを冷却し続けなければならぬわけですが、その過程で出てくるのが汚染水です。これを「アルプス」という施設で放射性物質を取り除くのですが、トリウムは取り除けないので、汚染水という呼び方が正しいのですが、それを突然、「処理水」に変えました。そこに恣意的な印象操作があるわけです。汚染水問題は、タンクを増設すれば解決できます。放出する必要はありません。その土地を確保すればいいだけです。東京電力福島第一の敷地の周辺には双葉町であろうと、大熊町であろうとちよつと広げればできるんです。そうすれば海にわざわざ放出し